

日本語能力評価・試験等一覧

1. 試験の概要

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
日本語能力試験（J L P T）	独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会の共催 ※海外では国際交流基金が各地機関の協力を得て実施。(台湾では公益財団法人日本台湾交流協会 と共催で実施。) ※国内では日本国際教育支援協会が実施	日本語能力を測定し、認定することを目的とする。	1984年	原則として日本語を母語としない人	【国内】439,085人 【海外】729,450人(2019年)	全レベル合計：408,400人	2回(7月,12月)	【国内】47都道府県 【海外】87カ国・地域	☑紙媒体	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他(言語知識(文字・語彙，文法))	N1 N2 N3 N4 N5	<N 1> 言語知識（文字・語彙・文法）・読解：110分 聴解： 60分 <N 2> 言語知識（文字・語彙・文法）・読解：105分 聴解： 50分 <N 3> 言語知識（文字・語彙）：30分 言語知識（文法）・読解： 70分 聴解： 40分 <N 4> 言語知識（文字・語彙）：25分 言語知識（文法）・読解： 55分 聴解： 35分 <N 5> 言語知識（文字・語彙）：20分 言語知識（文法）・読解： 40分 聴解： 30分	☑多肢選択形式	・マークシート式回答を機械で読み込み採点 ・日本語教育，心理統計分野の専門家が得点および試験全体の動向を確認 ・I R Tに基づいてスコアを算出	☑本人 ・日本国内受験者：受験者全員に「可否結果通知書」，さらに合格者には「日本語能力認定書」を送付 ・海外受験者：受験者全員に「認定結果及び成績に関する証明書」，さらに合格者には「日本語能力認定書」を交付	【国内】5,500円 【海外】実施都市によって異なる	☑無	https://www.jlpt.jp/
JPT日本語能力試験	一般社団法人 日本語能力試験実施委員会	ビジネスシーンや日常的な場面、状況において、高度で機能的なコミュニケーション能力を客観的に測定、評価することを目的としている。	1985年	日本語を母語としないビジネス関係者と日本語学習者	【国内】 1,102人 【海外】32,481人(2020年)	テスト結果は合格・不合格ではなく、聴解5点～495点、読解5点～495点、合計10点～990点のスコアで5点刻みで表示される。	・実施回数:年間12回 ・実施時期:毎月一回	【国内】9都市 【海外】6か国	☑紙媒体 ☑P C 利用（会場受験）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☐その他	・レベル評価でなく点数制(10点～990点)方式 ・点数区間別(880/740/610/460/220点以上)聴解・読解スキルの目安の案内	聴解 45分 読解 50分	☑多肢選択形式	・ 解答の読み込み * CBT:受験者の解答をデータ保存 * PBT:マークシート式答案用紙を機械でスキャンして保存 ・「得点等化方式(百分位 Conversion table)」により点数を算出	☑本人 ・結果発表は受験8日～10日後、JPT APP(アプリ)にて通知 ・JPT APPにID(メールアドレス)とパスワード入力ログイン後、成績結果を確認	【国内】 ・費用：6,000円 ・試験方式:紙媒体、PC利用（CBT） 【海外】 ・費用：実施都市によって異なる ・試験方式：PC利用（CBT）	☑有（不定期）	https://www.jptest.jp/
ACTFL-OPI	ACTFL(全米外国語教育協会)／Language Testing International ※非公式なテスト(Advisory OPI)については所属機関にテスト資格保持者がいれば可能 ※テストの団体：日本O P I 研究会	ACTFLによって開発された汎言語的に使える会話能力テスト。「OPI」とは，oral proficiency interview(オーラル・プロフィシエンシー・インタビュー)の頭文字で，外国語の口頭運用能力を測定するためのインタビューテスト。	1986年（1990年に日本でのテスト－養成開始）	言語学習者	非公開	非公開	随時	国内・海外問わず	☑電話 ☑対面 ※正式なテストは電話で行われる。Advisory OPIは対面等の方法が用いられる。	☐読むこと（読解） ☐聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☐その他	初級-下～超級	インタビュー 約20～30分	☑口述式	・終了後にOPIを行ったテスト－が録音を聞き直し，ガイドラインに照らしながら，被験者の口頭運用能力がどのレベルにあるかを判定 ・LTIが正式な判定結果を出す場合は，複数のテスト－が判定を行う。2名のテスト－間で判定が一致しなかった時には3人目のテスト－が判定に加わり最終評価を決定する。	☑本人	134ドル ※Advisory OPIを正式な資格にアップグレードする（Academic Institutional Upgrade）際の手数料は40ドル	☑無	http://opi.jp/ 日本語OPI研究会 （テスト－の団体

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
日本語NAT-TEST	・ 専門教育出版「日本語NAT-TEST運営委員会」 ・ 海外での試験は、各国の運営本部が同委員会の指導・監督の下、厳正に実施	日本語能力を判定することを目的とする。	1989年（2007年に現在の名称に変更）	日本語を母語としない日本語学習者	69,947人（2020年） 164,179人（2019年） 114,168人（2018年）	30,392人（2020年）	6回以上（2月、4月、6月、8月、10月、12月）	【国内】2都市 【海外】16か国	☑紙媒体	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識（文字・語彙・文法））	初級から上級までの5レベル（1Q、2Q、3Q、4Q、5Q）	●1Q 言語知識（文字・語彙・文法）・読解（110分） 聴解（約60分） ●2Q 言語知識（文字・語彙・文法）・読解（105分） 聴解（約50分） ●3Q 言語知識（文字・語彙）（30分） 言語知識（文法）・読解（70分） 聴解（約40分） ●4Q 言語知識（文字・語彙）（30分） 言語知識（文法）・読解（60分） 聴解（約35分） ●5Q 言語知識（文字・語彙）（25分） 言語知識（文法）・読解（50分） 聴解（約30分）	☑多肢選択形式	・ マークシート式回答を機械で読み込み採点 ・ 合格点は全体の解答を統計解析して算出（回ごとに変動） ・ 合格の条件は「総得点が合格点を上回っていること」と「各分野の得点が配点の25%以上であること」を同時に満たしていること	☑本人 試験日から3週間以内にサイトに合格発表、同時に成績表・合格証を郵送 ☑機関 合格発表日以降、成績証明を照会可能、公知の住所に郵送	【国内】5,500円 【海外】実施都市によって異なる	☑無 ※過去問題を収録した問題集を刊行	http://www.nat-test.com/
J.TEST 実用日本語検定	株式会社語文研究社「日本語検定協会・J.TEST事務局」	日本語能力を測定することを目的とする。	1991年	日本語を母語としない日本語学習者	73,157人 【国内】29,050人 【海外】44,107人 (2020年5月中止分を除く過去6回分)	●A-CLレベル試験 21,121人中 「特A級」83人「A級」109人「準A級」362人 「B級」613人「準B級」2,263人 「C級」3,802人 認定なし13,889人 ●D-Eレベル試験 36,224人中 「D」級6,075人 「E級」13,369人 認定なし16,780人 ●F-Gレベル試験 15,812人中 「F級」4,708人 「G級」4,890人 認定なし6,214人	6回（1月、3月、5月、7月、9月、11月）	【国内】15都市 2021年3月より24都市 【海外】12か国・地域 2021年3月より13か国・地域	☑紙媒体	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☑書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：文法・語彙・漢字力）	●A-CLレベル試験 1000点満点 特A級 930点以上 A級 900点以上（CEFR C2） 準A級 850点以上 B級 800点以上 準B級 700点以上（CEFR C1） C級 600点以上（CEFR B2） ●D-Eレベル試験 700点満点 D級 500点以上（CEFR B1） E級 350点以上（CEFR A2） ●F-Gレベル試験 350点満点 F級 250点以上（CEFR A1） G級 175点以上	●A-CLレベル試験・読解試験 80分 1 文法語彙問題 2 読解問題 3 漢字問題 4 記述問題 ・聴解試験 約45分 1 写真問題 2 聴読解問題 3 応答問題 4 会話・説明問題 ●D-Eレベル試験・読解試験 70分 1 文法語彙問題 2 読解問題 3 漢字問題 4 記述問題 ・聴解試験 約35分 1 写真問題 2 聴読解問題 3 応答問題 4 会話・説明問題 ●F-Gレベル試験・読解試験 60分 1 文法語彙問題 2 読解問題 3 漢字問題 4 短文作成問題（選択式） ・聴解試験 約25分 1 写真問題 2 聴読解問題 3 応答問題 4 会話・説明問題	☑多肢選択形式 ☑記述式（A-C、D-Eのみ）	読解・聴解試験 ・ マークシート式回答を機械で読み込み採点 記述試験 ・ 記述式回答を複数の採点担当者が採点	☑本人 ☑機関 試験日から約4週間後に郵送 ・ レベル認定者には認定証も同封 （試験実施後約3週間でウェブサイト検索可能）	【国内】4,800円 ※日本の学校に在籍する中学生及び高校生は受験料免除 * 2021年5月より5,200円 ※日本の学校に在籍する中学生及び高校生は受験料50%免除 【海外】国・地域によって異なる。	☑有（年1回以上） ☑有（持ち帰り可）	https://j-test.jp/newjtest https://j-test.jp/cefr-jtest
ACTFL及びLTIの習熟度試験（日本語版）	ACTFL(全米外国語教育協会) & Language Testing International (LTI)& iJapan株式会社（日本におけるLTIの公式な代理店）	各テストは、個人の特定の習熟度レベルを適切に判断し、最終的には有効かつ正当な言語運用能力を測定するように設計されている。	1992年	日本語を話す者を対象に日本語の口頭運用能力を測定します。	オンライン受験の場合、受験者の場所は特定不可のため、全世界の年間受験者数を提供：約90万人（OPI&OPIc & LPT&WPT & RPT）	合格や不合格等の判定を行っていない	随時	OPIテスト（電話）利用可能時間は、月曜から金曜の午前8時から午後10時まで（米国東部標準時）。 OPIc / WPT / LPT / RPT:コンピュータベースのテスト（CBT）のため、いつでもどこでもネット環境があれば受験可；また、認定されたテストセンターでの受験も可能	☑P C利用（在宅受験）（OPIc / WPT / LPT / RPT） ☑電話（OPI）	☑読むこと（読解：RPT） ☑聞くこと（聴解：LPT） ☑書くこと（記述：WPT） ☑話すこと（やりとり：OPI & OPIc）	For Speaking Tests (OPIc or OPI) ACTFL Rating Scale: CEFR Rating Scale: Superior ... C2 Advanced High ... C1 Advanced Mid...B2.2 Advanced Low ... B2.1 Intermediate High ... B1.2 Intermediate Mid ... B1.1 Intermediate Low ... A2 Novice High ... A1 Novice Mid ... 0 Novice Low ... 0	OPI: 15-30 mins OPIc: 20-40 mins WPT: 20-80 mins LPT: 50-125 mins RPT: 50-125 mins	☑多肢選択形式（LPT, RPT） ☑口述式（OPI, OPIc） ☑記述式(WPT)	受験者の言語運用能力を基準に基づいて評価。スピーキングテスト（OPIおよびOPIc）は、ACTFL認定のテスターによって評価。テストが完了すると、テスト内容はLTIのACTFLテストボックスに送信され、レビュー、スコアリングされる。（WPT、LPT及びRPTの情報について、版元と確認中）	☑本人 ☑機関 PDF証明書は3～5日（営業日）でメールで送付される。 24～36営業時間以内にクライアントのパスワードで保護されたサイトに投稿される。会社、機関、または機関は、受験者に結果を通知する方法がある。バイリンガルの資格があるかどうかを判断する。	OPI: 都度要相談 OPIc(Eng): JPY 7500 OPIc(Other): JPY 9500 WPT(Eng): JPY 7500 WPT(Other): JPY 9500 LPT: JPY 5800 RPT: JPY 5800	☑無	https://www.language-testing.com/lti-information/general-test-descriptions

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
BJTビジネス日本語能力テスト	公益財団法人日本漢字能力検定協会	ビジネス場面で必要とされる日本語コミュニケーション能力を測定することを目的とする。	1996年	日本語を母語としないビジネス関係者、日本のビジネス社会で働くことを目指している学生	志願者数：5,042人 【国内】3,326人 【海外】1,716人(2019年)	J1+：249人 J1：568人 J2：2,150人 J3：1,317人 J4：367人 J5：88人	随時	【国内】33都市 【海外】17か国と1地域 (2020年11月27日現在)	☑P C 利用(会場受験)	☑読むこと(読解) ☑聞くこと(聴解) ☐書くこと(記述) ☐話すこと(発表) ☐話すこと(やりとり) ☑その他(言語の基礎力：語彙・文法、敬語・待遇表現)	J1+：どのようなビジネス場面でも日本語による十分なコミュニケーション能力がある(600～800点) J1：幅広いビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある(530～599点) J2：限られたビジネス場面で日本語による適切なコミュニケーション能力がある(420～529点) J3：限られたビジネス場面で日本語によるある程度のコミュニケーション能力がある(320～419点) J4：限られたビジネス場面で日本語による最低限のコミュニケーション能力がある(200～319点) J5：日本語によるビジネスコミュニケーション能力はほとんどない(0～199点)	聴解：約45分 聴読解：約30分 読解：30分 計：約105分	☑多肢選択形式	・受験者がP C画面上で入力した解答を即時自動採点 ・I R Tに基づいた統計処理によりスコアを算出	☑本人 ・受験後すぐにスコアレポートを交付 ・ピアソンVUEのウェブサイト受検結果を確認でき、翌日以降に成績認定書を印刷可能	【国内】7,000円(税込) ・公的支援： ①留学生就職支援事業における受験料の全額・一部補助 ②文部科学省「留学生就職促進事業」における学習支援 【海外】実施都市によって異なる	☑無	https://www.kanken.or.jp/bjt/
日本留学試験(EJU)	独立行政法人日本学生支援機構	日本の大学等で必要とする日本語力(アカデミック・ジャパニーズ)及び基礎学力の評価を行うことを目的とする。	2002年	外国人留学生として、日本の大学(学部)等に入学を希望する者	【国内】46,744人 【海外】12,587人(2019年度) 第1回【国内】25,237人 【海外】6,682人 第2回【国内】21,507人 【海外】5,905人	合格・不合格はなくスコアのみ	2回(6月・11月)	【国内】16都道府県 【海外】14か国(18都市)	☑紙媒体	☑読むこと(読解) ☑聞くこと(聴解) ☑書くこと(記述) ☐話すこと(発表) ☐話すこと(やりとり) ☐その他	レベルは設けていない	記述30分 読解40分 聴解・聴読解55分	☑多肢選択形式 ☑記述式	・読解、聴解・聴読解マークシート式解答用紙を機械で読み込み採点し、I R Tに基づいてスコアを算出 ・記述 記述式解答用紙を採点基準に基づき採点	☑本人 試験実施後約6週間後の指定日に郵送にて通知(オンライン出願者は同指定日よりオンライン上で確認が可能) ☑機関 成績利用校として登録している大学等は、所定の手続きにより同指定日よりオンラインで受験者の成績照会が可能	【国内】7,560円(1科目のみの受験者) 14,040円(2科目以上の受験者) 【海外】実施都市によって異なる	☑有(年1回以上)	https://www.jaso.go.jp/ryugaku/study_j/eju/index.html
標準ビジネス日本語テスト(STBJ)	一般社団法人応用日本語教育協会	一般的な日本語の語彙や表現だけでなく、ビジネスに求められる敬意表現やビジネスマナーに関する知識、実践的なコミュニケーション能力の測定を目的とする。	2007年	日本語を母語としない者(日本企業や日系企業へ就職を希望する者、既に就職した者、日本への留学を希望する者)	【国内】151人 【海外】4,135人(2019年)	BJ1～BJ5までのレベル判定のため、可否の判定はなし。	随時	【国内】随時 【海外】3か国	☑紙媒体	☑読むこと(読解) ☑聞くこと(聴解) ☐書くこと(記述) ☐話すこと(発表) ☐話すこと(やりとり) ☑その他(言語知識：語彙)	・BJ1(800-1000点)CEFR C1相当 ・BJ2(650-799点)CEFR B2相当 ・BJ3(450-649点)CEFR B1相当 ・BJ4(250-449点)CEFR A2相当 ・BJ5(0-249点)	テスト形式： テスト1：聴解能力テスト(1) テスト2：聴解能力テスト(2) テスト3：発話能力テスト テスト4：聴読解能力テスト(2) テスト5：聴読解能力テスト(2) テスト6：読解能力テスト テスト7：語彙能力テスト 試験時間(全体)：約85分 ※聴解問題があるため、問題により若干の誤差がある。	☑多肢選択形式	マークシート式回答を機械で読み込み採点	☑本人 受験後約10日後に、各国事務局ウェブサイト上で、受験番号・パスワードにより結果を照会、または郵送にて通知。 ☑機関 「法務省が告示した日本語教育機関」「日本語教育振興協会認定校(維持会員でなくても可)」及び「大学、専門学校等の学校法人」に書類を発行。試験日の原則3週間後から発行可能。	【国内】インハウス試験4,500円 準会場試験 現在検討中 【海外】実施都市によって異なる	☑無	https://www.ajl-ea.net/stbj/
J-CAT 日本語テスト	一般社団法人日本語教育支援協会	日本語のeラーニング教材開発、ICT技術に基づくシステム開発を行い、インターネットを通して日本語教育機関に幅広く提供することにより、日本語・日本事情教育を発展させることを目的とする。	2008年	日本語を母語としない者	【国内】約20,000人(2019年度) 2017年度：23,830人 2016年度：17,814人	該当しない	随時	実施地を限定していない。	☑P C 利用(会場受験) ☑P C 利用(在宅受験) ☑C A T	☑読むこと(読解) ☑聞くこと(聴解) ☐書くこと(記述) ☐話すこと(発表) ☐話すこと(やりとり) ☑その他(文法、語彙)	CEFR A 1からC1までをフンスケールで評価	試験科目：語彙、文法、読解、聴解の4セクション 時間：全セクション通して実施。約45分～90分	☑多肢選択形式	・受験者がP C画面上で入力した解答を即時自動採点 ・I R Tに基づいてスコアを算出	☑機関 ・テスト終了と同時に得点が表示	3プラン別・Challenge:1000円 Performance:2,000円 Certificate:4,000円	☑無	https://j-cat.jalesa.org/

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
アルクの電話による日本語会話テスト JSST	株式会社アルク	日本会話力テスト。日本語に関する知識を「その時、その場」で組み合わせ、話を創造する力を測る。	2008年	日本語を母語としないビジネスパーソン	1,500人(2019年)	10段階評価のレベル判定のため、合否無し	随時	実施地を限定していない。	☑電話	☐読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☑話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：文法、語彙、発音、流暢さ、単語）	レベル1～10の10段階評価 レベル1～3：初級 レベル4～8：中級 レベル9～10：上級	10問の質問をランダムに出題。 所要時間約15分	☑口述式	録音された会話を複数の評価担当者が確認して評価	☑機関 ・申込者にメール通知 受験期間終了後10営業日後にウェブサイトにて公開	・コメントシート付 税抜5,500円 ・コメントシートなし(スコアレポートのみ) 税抜4,500円	☑無	https://www.alc.co.jp/jsst/
TOPJ実用日本語運用能力試験	一般財団法人アジア国際交流奨学財団	日本語を外国語として勉強している学習者には、語彙や文法、文型などの基礎能力の到達度を測定することはもとより、日本に滞在している外国人の生活や仕事などにおけるコミュニケーションの中での疑問点を通して、日本社会の中での習慣と文化に対する理解能力を測定することも目的としている。	2008年	・日本語を母語としない外国人対象 ・日本語を外国語として勉強している学習者 ・日本に滞在している外国人	25,145人(2019年) 内訳 【国内】 299人 【海外】 24,846人	初級：23,632人 A-4：2,227人 A-5：10,935人 その他：10,470人 中級：1,239人 A：28人 B：81人 C：262人 その他：868人 上級：274人 A：13人 B：35人 C：63人 その他：153人	6回 奇数月	【国内】5都市 【海外】6か国	☑紙媒体	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☐その他	上級 C1～C2程度 中級 B1～B2程度 初級 A1～A2程度	上級 聴解 35分 筆記 85分 初級・中級 聴解 35分 筆記 55分	☑多肢選択形式	マークシート式回答を機械で読み込み採点	☑本人 ☑機関 ・試験実施後、2週間以内に試験結果検索ページで、試験の決定級・得点の結果等を調べることができる。 ・試験実施後、1か月以内に個人に試験結果通知並びに認定書を送付。	【国内】初級・中級・上級5,000円 【海外】実施都市によって異なる	☑無	https://www.topj-test.org
とよた日本語能力判定（対象者判定テスト）	豊田市国際まちづくり推進課 ※平成20年度から令和元年度までは名古屋大学に委託し、令和2年度からは（公財）豊田市国際交流協会に委託して実施	日本語の会話力、読み書き能力を測り、「とよた日本語学習支援システム」が運営する日本語教室での支援対象者を認定するため。	2008年	豊田市内に在住・在勤で、「とよた日本語学習支援システム」が運営する日本語教室の受講を希望する外国人住民	139人	139人	9回	【国内】愛知県豊田市 ・企業内での日本語教室 ・地域での日本語教室	☑紙媒体 ☑電話 ☑対面	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☑書くこと（記述） ☑話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☐その他 ※「とよた日本語学習支援システム」では0,1レベルの人を対象に支援している。	(レベル) 6 熟達段階 5 深化段階 4 拡段階 3 自立段階 2 要支援段階 1 基礎段階 0 未学習段階	各判定約15分 ・「読む・書く」の判定 ・「聞く・話す」の判定	☑多肢選択形式 ☑記述式 ☑口述式	「対象者判定の手引き」に沿って採点。採点後は、同手引きのフローチャートに基づきレベルを判定	☑本人 判定実施後、1週間以内に本人に通知	無料	http://www.city.toyota.aichi.jp/index.html	
J-cert生活・職能日本語検定（J-cert）	公益財団法人 国際人財開発機構	日本語習熟度の検定試験を行い、日本への留学・研修ないしは日本企業への就職に役立たせることを目的とする。	2009年 2017年 GNK→J-cert 名称変更	日本語を母語としない内外の外国人	【国内】 0人 【海外】 7,729人(2019年)	Aコース受検 189人 C1(上 級) 51人 B2(準上級) 45人 B1(中 級) 24人 不合格69人 Bコース受検 7,339人 A2.2(準中級) 3,711人 A2.1(初 級) 1,612人 不合格 2,016人	【国内】 0回 【海外】 4回(2019年) 3・5・9・11月の第一日曜日（基本スケジュール）	【国内】 1都市 【海外】 9か国	☑紙媒体 ☑対面 ☑その他（録音音源の再生）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☑書くこと（記述） ☑話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：文字・語彙・文法） ☑その他（社会文化知識） ※話すこと書くことはマスター級にて実施	C2（マスター級） C1（上 級） B2（準上級） B1（中 級） A2.2（準中級） A2.1（初 級） A1（基礎級） 2021年3月より基礎級認定予定	マスターコース 総合100分 会話30分 Aコース 文法・読解60分 聴解30分 社会文化40分 Bコース 社会・文化(読解)60分 聴解30分 文字・語彙・文法45分	☑多肢選択形式 ☑記述式 ☑口述式	・社会文化、聴解、文字・語彙・文法試験、筆記総合 ☑マークシート式採点・判定 ・口述試験 ☑録音された会話を複数の採点担当者が確認して採点 ※口述試験はマスター級にて実施	☑本人 ☑機関 ☑受験後、4週間以内に合否結果通知書を自宅、または所属団体に郵送。 ☑合格者の合否結果通知書には認定書を記載	【国内】マスターコース15,000円 Aコース5,000円 Bコース4,000円	☑無	https://www.j-cert.org/

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
実践日本語コミュニケーション検定（PJC）	株式会社サーティファイ「コミュニケーション能力認定委員会」	日本で就労する際に必要とされる日本語能力試N1～N2相当の「ビジネス会話レベル」の日本語コミュニケーション能力を測定することを目的とする。	2013年	日本語を母語としない者	約2,000人 国内：海外＝9：1	受験者全員をレベル認定	随時	【国内】5都市 【海外】4か国	☑紙媒体 ☑P C 利用（会場受験）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：語彙、表現）	A(B2) B(B1) C D E	80分 （読解30分、聴解・聴読解50分）	☑多肢選択形式	マークシート式回答を機械で読み込み採点	☑本人 ☑機関 ・ペーパー試験 マークシート返送から2週間程度でレベル証明書を送付。 ・Web試験 結果は試験後即時で画面表示。レベル証明書は試験後1週間以内に後追いで送付。	・評価試験(ペーパー試験) 5,000円 ・評価試験（Web試験）4,400円 ・アセスメント試験 2,200円	☑無	https://www.sikaku.gr.jp/c/pjc/
浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム（HAJAC）	公益財団法人浜松国際交流協会	浜松市の多文化共生を目指す取り組みの一環として、外国人住民の自立と生活ステージの向上を図るために、個人が持つコミュニケーション能力を浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム（HAJAC）で視覚化（見える化）し、その評価を活用することで、外国人住民、日本人支援者、日本社会のそれぞれに具体的な波及効果をもたらすことを目的とする。	2013年	浜松市内に在住・在勤の日本語を母語としてない外国人	約120人 （外国人学習支援センター日本語教室やHICE主催の日本語教室申込者のプレテスト及び修了時テストで実施）	約120人	随時（申込時）、年2回（修了時テスト）	静岡県浜松市外国人学習支援センター	☑対面	☐読むこと（読解） ☐聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☐その他	C7～C0	半構造化インタビュー（レベルによってはロールプレイ／逆質問も行う）15分間	☑口述式	評価者は音声聞き返ししながら、評価基準表を元に学習者のレベルを判定する。判定は2名の評価者で実施する。	☑本人 インタビュー評価シートへ記入し、学習者へ対面でフィードバックする。	無料	☑無	http://hice.jp/publish/tools.html
実践日本語コミュニケーション検定・ブリッジ（PJC Bridge）	株式会社サーティファイ「コミュニケーション能力認定委員会」	日本での就学に必要なとされる日本語能力試験N5～N3レベルの基礎的な日本語能力を測定することを目的とする。	2015年	日本語を母語としない者	約4,000人 国内：海外＝4：6	受験者全員をレベル認定	随時	【国内】10都市 【海外】11か国	☑紙媒体 ☑P C 利用（会場受験）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：語彙、表現）	A(B1) B(A2) C(A1) D E	60分（読解40分、聴解20分）	☑多肢選択形式	マークシート式回答を機械で読み込み採点	☑本人 ☑機関 ・ペーパー試験 マークシート返送から2週間程度でレベル証明書を送付。 ・Web試験 結果は試験後即時で画面表示。レベル証明書は試験後1週間以内に後追いで送付。	・評価試験(ペーパー試験) 5,000円 ・評価試験（Web試験）4,400円 ・アセスメント試験 2,200円	☑無	https://www.sikaku.gr.jp/c/pjc/bridge/
O P I c（日本語版）	一社）G l o b a l 8 がLTI(Language Testing International)許諾のもと日本における契約・実施を展開。LTIは1992年設立され、世界最大の外国語教育に関する学会ACTFL(全米外国語教育協会)の独占的語学テスト実施機関として、40ヶ国以上で14ヶ国語のOPIC語学テストを提供。	O P I の受験機会を拡大すべく i B T（internet based test）化したもの	2016年（O P I c 日本語版のサービスイン）	日本語を母語としない者を対象に日本語の口頭運用能力を測定する。	非公開 （参考値としてサービス初年度2016年実績 国内：8人 海外：642人）	当テストは合格／不合格の概念が無く、レベル認定が行われる。認定レベルは非公開	随時	要求により調整可能 海外は他の認定機関にて実施対応	☑P C 利用（会場受験） ☑その他（在宅は監督行為や認定利用目的で対応可能性あり）	☐読むこと（読解） ☐聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☐その他	Superior～NoviceLowで評価。尚、評価期待レベルにより申込レベル(FORM)を5段階で設定。それぞれの評価レベルの意味やCEFRとの関係は以下URL参照下さい。 http://www.global8.or.jp/Evaluation%20Indicators_Global8.pdf	説明・準備に20分 話すこと（やりとり）に概ね30分（レベルや回答時間による）。	☑口述式	・口述試験 ・終了後にクラウドに録音された（やりとり）データをACTFL公認のRaterがガイドラインに照らしながら、被験者の口頭運用能力がどのレベルにあるかを評価	☑本人 或いは ☑機関（法人会員）に1週間以内に通知	実施並びに結果通知方法により異なるが、10,000円＋消費税を基準に設定	☑無	http://global8.or.jp/opic.html

(1)能力評価の名称	(2)実施機関・団体	(3)目的	(4)開始年	(5)能力評価の主な対象	(6)年間受験者等数	(7)合格者/レベル認定者数	(8)年間実施回数・実施時期(国内)	(9)実施地(国内・海外)	(10)テスト方式・PC利用等	(11)評価を行う言語能力・活動等	(12)評価を行うレベル	(13)試験科目と時間	(14)解答方法・方式	(15)採点・判定方法	(16)結果通知方法及び通知に要する時間	(17)受験費用	(18)試験問題の公表	(19)URL
JLCT（外国人日本語能力検定）	一般社団法人外国人日本語能力検定機構（J L C T）	言語コミュニケーション能力を測ることを目的とする。	2018年	原則として日本語を母国語としない人	【国内】13人 【海外】24,231人（2019年）	（JCT1）合格者：76人 （JCT2）合格者：361人 （JCT3）合格者：863人 （JCT4）合格者：3,885人 （JCT5）合格者：10,052人	年間5回（3月、5月、7月、9月、11月）（2019年）	【国内】1都市 【海外】23か国	☑紙媒体 ☑P C利用（会場受験）（中国のみ）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識：文字・語彙・文法）	JCT1→CEFR C1 JCT2→CEFR B2 JCT3→CEFR B1 JCT4→CEFR A2 JCT5→CEFR A1	（JCT1） 語彙文法読解 110分 聴解 60分 （JCT2） 語彙文法読解 105分 聴解 50分 （JCT3） 語彙 30分 文法読解 70分 聴解 40分 （JCT4） 語彙 30分 文法読解 60分 聴解 35分 （JCT5） 語彙 25分 文法読解 50分 聴解 30分	☑多肢選択形式	・マークシート式回答を機械で読み込み採点 ・中国WEB試験は正答をプログラミングして即時採点	☑本人 ☑機関 ・国内は社団本部から、海外は海外の各エージェントから通知 ・合格者全員に合格証書と成績通知書を各国エージェント宛て送付。所定手続を行った者には日本国内の学校宛に成績通知書を発行 採点結果は試験後3週間前後。証明書発送は3～4週間前後 中国WEB試験の採点結果は即日。証明書発送は1週間前後	【国内】- 【海外】実施都市によって異なる	☑無 ※過去問題集を発刊	www.jlct.jp
ONi T 口頭ビジネス日本語試験	有限会社アイシーアイ	第一に、受験者がビジネス場面における日本語を「話す」力を証明したり、自身の弱点を客観的に理解することで、より成長し、充実した社会人生活を送るための指標となることである。 第二に、企業側が受験者の得手不得手を客観的に把握することで、配属の際のミスマッチ防止や適切な研修の実施が可能になるため、企業の人材戦略の強化の一助になることである。	2018年	主に日本語を使用して仕事に従事する必要のある企業への就職を希望する学生、内定者、入社して日の浅い社員などを想定している。	非公表	非公表	年間を通じていつでも受験可能	国内会場は、現在アイシーアイ会場（東京）のみ（一定の条件を満たした場合にはオンライン受験も可能）	☑P C利用（会場受験） ☑P C利用（一定の条件を満たした場合在宅受験）	☐読むこと（読解） ☐聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☑話すこと（発表） ☑話すこと（やりとり） ☑その他（6つの評価観点：発音、文法、語彙、流暢さ、構成、聞き手への配慮/場面に応じた言葉遣い）	●レベル0～7の8段階 ・レベル7（スコア255～300点） ・レベル6（スコア230～254点） *レベル6,7「高度な業務対応可能」 ・レベル5（スコア205～229点） ・レベル4（スコア180～204点） *レベル4,5「社外業務対応可能」 ・レベル3（スコア130～179点） ・レベル2（スコア80～129点） *レベル2,3「社内業務対応可能」 ・レベル1（スコア1～79点） *レベル1「日常会話レベル」 ・レベル0（スコア0点） *レベル0「評価不能」 ※CEFRとのレベル対照はHPを参照。 尚、主にCEFR B1-C2レベルの受験者を対象にしたテストであるため、A1,A2レベルの受験者の受験は推奨しない。	●話す力：質問と回答時間合わせて約1時間。 ・ウォームアップ：40秒 ・問題1 状況説明能力：40秒 ・問題2 指示確認能力：40秒 ・問題3 伝言能力：60秒 ・問題4 状況連絡能力：40秒 ・問題5 確認能力：60秒 ・問題6 報告相談能力：60秒 ・問題7 意見説明能力：60秒 ・問題8 報告能力：60秒 ・問題9 敬語運用能力：40秒 ・問題10 反対意見説明能力：90秒 ・問題11 解決方法提案能力：120秒 ・問題12 意見根拠説明能力：120秒	☑口述式 問題は音声や画像で提示し、音声を録音して解答。	・コンピュータを介して録音された解答を第三者機関で認定された複数の評定者が評価。 ・評価の信頼性の確保は評定者間信頼性に拠る。 ・すべての評価について第三者機関（一般社団法人日本語コミュニケーション協会が設置する評価、日本語教育の専門家からなる試験評価委員会「TEC」）が信頼性をチェック。	☑本人 ☑機関 約1ヶ月後、受験者もしくは企業ご担当者へ評価結果を記載した「公式評価レポート」を送付。	15,000円+税/回 ※追加でコンサルティングを希望の場合別途5,000円+税/回	☑無	https://www.alnihongotest.org/
日本語能力評価試験（J P E T）	学校法人駿河台学園日本語能力評価試験協会	学習・ビジネスを含む日常生活シーンでの日本語運用能力を測定することを目的とする。（熟達度テスト）	2019年	日本語を母語としない外国人留学生・ビジネスパーソン	5,679人（直近2020年1月～2020年12月）	1000点満点の無段階評価のため合否無し	11回（4月を除く毎月1回）	【国内】6都市 【海外】3か国 ※2021年度予定	☑紙媒体	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（言語知識（文字・語彙、文法））	1000点満点の無段階評価 下記はCEFRとの対応表 得点：CEFR 1000～940：C2 939～890：C1 889～780：B2 779～430：B1 429～350：A2 349～300：A1	聴解・読解（合計90分）	☑多肢選択形式	・マークシート式回答を機械で読み込み採点 ・令和3年度より I R T を活用してスコアを算出	☑本人：受験後10日間で郵送通知 ☑機関：依頼後2日間で機関に直接郵送通知	【国内】5,000円 【海外】実施都市によって異なる（3,000円前後）	☑有（年3回）	https://www.jp-et-sundai.jp/
国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）	独立行政法人国際交流基金	主として就労のために来日する外国人が遭遇する生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力を測定し、「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」があるかどうかを判定する	2019年	日本語を母語としない外国人、その中でも、主として就労のために来日する外国人を対象とする	【海外】7,971人（2019年度）	基準点到達者数（2019年度） 【海外】12,737人	2021年3月から、年6回（奇数月）実施予定	【海外】7か国（実績） 【国内】47都道府県（2021年3月開始予定）	☑P C利用（会場受験）	☑読むこと（読解） ☑聞くこと（聴解） ☐書くこと（記述） ☐話すこと（発表） ☐話すこと（やりとり） ☑その他（文字と語彙、会話と表現）	就労のために必要な、「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」の目安として、A2レベルの一定程度の日本語力を持っているかどうかを判定	文字と語彙 会話と表現 聴解 読解 計60分（セクションごとの解答制限時間はない）	☑多肢選択形式	受験者がPC画面で入力した解答を即時自動採点、IRTに基づいて総合得点（尺度得点）を算出し、判定基準点に到達したか否かを判定	☑本人 テスト終了時のPC画面に総合得点と判定結果を表示。また、受験後5営業日以内に判定結果通知書をウェブサイト上で発行。	【国内】7,000円 【海外】国によって異なる	☑無	https://www.jpf.go.jp/jft-basic/index.html

日本語コミュニケーション能力測定試験 JLCAT (Japanese Language Communication Ability Test)	一般社団法人 アジア教育交流促進協会 Association of Asia Educational Exchange	日本語でのコミュニケーション能力を「聴解」「読解」「会話」「記述」の4技能からそれぞれ測定し、総合的に評価すること、また日本語学習への活用や留学、就労等における証明書として利用されることを目的とする。	2020年	原則として日本語を母語としない者	・受験者数（2020年6月～2020年12月） 633人（国内在住32人、海外在住601人） ※受験者の所在地は問わず、規程の環境下（インターネットに接続されたPC等）において自宅等で受験可能。	試験の性質上、可否は定めない。	随時 （毎日 9時・13時・17時（日本時間）） ※一部祝日等を除く	規程の環境下（インターネットに接続されたPC等）において自宅等で受験可能。	☒ P C 利用（会場受験） ☒ P C 利用（在宅受験） ☒ C A T	☒ 読むこと（読解） ☒ 聞くこと（聴解） ☒ 書くこと（記述） ☒ 話すこと（発表） ☒ 話すこと（やりとり） ☒ その他（言語知識（語彙、文法）	C2 C1 B2 B1 A2 A1 ※CEFR対応 ※IRT、CAT方式を採用しているため、受験時のレベル選択は不要。	・聴解能力試験（聴解・聴読解・語彙・文法） 60分 ・読解能力試験（文章読解・語彙・文法） 60分 ・会話能力試験（発表・対話・意見） 20分 ・記述能力試験（作文・要約） 50分	☒ 多肢選択形式 ☒ 記述式 ☒ 口述式	・聴解能力試験／読解能力試験 IRT、CATの応用により出題及び採点を自動プログラム化。多肢選択形式により解答された正答率等に応じて随時出題内容や難易度等が遷移しスコアを算出。 ・会話能力試験／記述能力試験 PCのマイク及びキーボードを使用して入力された音声や文章による解答を複数の認定評価員により採点し評価。 ☒ 本人受験後、約1か月で受験者のマイページに成績証明書がアップロードされ、同時に受験者へメールで通知する。アップロードされた成績証明書は、受験者がマイページからダウンロードやプリントアウトすることにより使用可能。 ※団体受験の場合は代表者に受験者の成績一覧表を送付する。 ☒ 機関成績証明書を受け取った機関では、機関固有の成績照会アカウントを使用し、真偽照会が可能。 ※成績証明書には、固有のQRコード及び電子すかし番号（watermark）が記載。	【国内】20,000円 ※新型コロナウイルス感染症等の影響を踏まえて割引期間を延長：2021年3月末まで15,000円（暫定）。以降も情勢等を考慮して対応する。	☒ 無	https://jlcat.org/
---	--	--	-------	------------------	---	-----------------	--	---------------------------------------	---	---	--	---	--	---	---	---------------------------------------	---